

授 業 科 目 名	保育実習指導Ⅱ	教 員 名	渡邊耕二 田上幸雅 満行知花 山下愛実	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	演習	配当年次	4年次前期	卒業要件	保育士	選択必修
科 目 番 号	JIS401				こども音楽療育士	
単 位 数	2単位				小幼コース	選択
科 目					幼保コース	選択必修
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標	保育実習Ⅰa（保育所）を通して学んだ知識や技術等について振り返り、自己の課題及び養成校で学んだ教科の内容をもとに、新たな目標を設定する。また、保育実習Ⅱに向けて、子ども理解を起点として環境を整え、保育を立案、実践し、振り返るという保育のプロセスとその重要性を理解して保育実習Ⅱに臨めるようになることを目標とする。					
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育の理解を深める。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育実践において必要とされる力を習得する。 3. 観察、記録及び自己評価等を通じた保育のプロセスについて、事例や演習を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の自己評価を行い、自身の課題や認識を明確にする。 					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている」を育成する科目として配置している。					
授 業 の 概 要	本講義は、保育実習Ⅰaの振り返りをもとに、保育実習Ⅱに臨む準備を行う。具体的には、実習目標の設定、実習日誌の書き方の見直し、保育指導案の立案・実践を行う。また、異年齢保育や子育て支援、保育士としての職業倫理等を保育所保育指針解説や事例を通して学ぶ。アクティブラーニングとして、振り返り、個別の質疑応答、グループディスカッションなどを取り入れる。					
授 業 計 画	<p>第1回：保育実習の意義・目的 学部長講話を通して、保育実習の意義と目的を理解し、保育実習Ⅰと保育実習Ⅱの違いを理解するとともに、自身の課題と目標を明確化する（目標1）。</p> <p>第2回：保育実習Ⅰaの振り返りと実習課題 保育実習Ⅰa及び教育実習における学びの共有を行う。エピソードをもとに、子ども理解を深め、子ども理解を起点とした保育の視点から考えを深めるとともに、自己の課題を明確化する。また、第1,2回の振り返りを踏まえて保育実習Ⅱの自己課題を設定する。（目標1,3,5）</p> <p>第3回：指導案の立案・検討 子ども主体の保育実践に向けた指導案を作成する上での配慮点を学ぶ。また、グループディスカッションを通して、子どもが主体的に活動するなかで生まれる学びを捉える視点を理解する。（目標2,3）</p> <p>第4回：保育施設における地域の子育て家庭の支援 保育施設における地域の子育て支援家庭を対象とした取り組みを参観することを通して、地域のニーズや地域の子育て支援の拠点としての保育施設の役割、子育て家庭支援事業の意義を考え、理解する。（目標2,4）</p> <p>第5回：子どもの育ちを支える保育者の適切な関わり（3歳未満児クラス） 3歳未満児クラスにおける参与観察を行う。その際に、保育者の子どもへの関わりに着目し、エピソード記録を作成する。また参与観察・エピソード記録の作成と共有を通して、子どもが自ら考え、主体的に行動する保育者の関わり（言葉がけや環境構成）について考え、子どもの育ちを支える適切な保育者の関わりについての理解を深める。（目標2,4）</p>					

	<p>第6回：子どもの育ちを支える保育者の適切な関わり（3歳以上児クラス） 3歳以上児クラスにおける参与観察を行う。その際に、保育者の子どもへの関わりに着目し、エピソード記録を作成する。また参与観察・エピソード記録の作成と共有を通して、子どもが自ら考え、主体的に行動する保育者の関わり（言葉がけや環境構成）について考え、子どもの育ちを支える適切な保育者の関わりについての理解を深める。（目標2,4）</p> <p>第7回～第12回：模擬保育と事後検討会 子どもが主体となる活動を立案し、環境を構成し、模擬保育を行う。その後、事後検討会によるディスカッションを通して、自己の課題を明確化するとともに、子どもの育ちを支える保育環境の工夫や人的環境としての保育者の役割についての理解を深め、実践力を養う。（目標2,3,4）</p> <p>第13回～第14回：保育者の専門性 児童憲章、全国保育会倫理綱領、「重大事故検証報告書」等をもとに、子どもの最善の利益を考慮した保育についてディスカッションを行い倫理観を養うとともに、保育者に求められる資質・能力について理解する。（目標4）</p> <p>第15回：実習直前指導 実習に臨む心構え、諸注意、準備物等の確認をする。また、実習中や実習後の手続きについて確認する。（目標1）</p> <p>定期試験</p>
学生に対する評価	<p>観察レポート提出20%、検討会への積極的参加10%、 模擬保育20%（事前準備10%、実践レポート10%）、実技課題10%、実技試験15%、最終レポート25%で評価する。60%以上を合格とする。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時間外の学習について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：前回の授業内容を復習し、自分の知識としておくこと。理解不十分なことは次の授業で質問をすること。</p> <p>事後学習：講義内容について自分なりに整理し、次回の授業までに理解しておくこと。理解不十分な内容は次回の授業で質問をすること。</p>
テキスト	特になし
参考書・参考資料等	<p>『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館</p> <p>『新版遊びの指導一乳・幼児編一』 公益財団法人 幼少年教育研究所(編) 同文書院</p>
担当者からのメッセージ	大学での最後の実習となるため、明確な目標を持ち、将来の見通しを持って実習に臨まれることを期待します。
オフィスアワー	<p>渡邊耕二：授業時に伝達する。</p> <p>田上幸雅：授業時に伝達する。</p> <p>満行知花：授業時に伝達する。</p> <p>山下愛実：授業時に伝達する。</p>